



平成 12 年 3 月 20 日  
 発行所 武蔵野新聞社  
 編集 行 務 任 者 局  
 電話 3740-3657

# 知っていますか 花の木のエピソード

五洲堂目 池田良夫  
 アメリカの首都ワシントンのポトマック河畔の桜は、白米及好の懸橋として、毎年盛大な「桜まつり」が開かれ、大勢の見物客で賑わうことで知られています。その昔、東京市長尾崎行雄が贈呈したもので、大切に育てられて今日に至っています。

その返礼として、アメリカの花みず木が贈られて来たことは意外と知られていません。ドッグウッドと呼ばれるこの木は、日本の桜のように米國を代表する木で、五月頃ピンクと白い花を咲かせ、秋には赤い実と紅葉を奏しませてくれます。

この友好のシンボルを、玉川の地に復活させ、永遠にのこしていこうと、玉川高島屋前の都道の街路樹として植樹して大切に育てて来ました。

第十八回花みず木フェスティバルは四月二十九日、各種行事で賑わいます。



## 花のある腰か町へ

高橋哲司  
 用賀の町も新玉川線駅前にビルが出来、個人住宅の建替え、マンション建設などが進み、日毎に様子が変わってゆきます。その中で新しい町並に、今流行のカーデニング、ハンギングのほんの少しのスペースの中で花が緑が、みなさんにおはよう、ごくろうさまと呼びかけているように思います。

私も緑や花は純真です。私も花栽培者の一人として花のある町を築くために努めています。しかし問題もあります。ある日突然花共々器までなくなってしまう。みな様と共に心暖かい町にしてゆきたいと思っています。

## 花は心の潤い

加瀬泰男

三月の声を聞くとき、心なしか気分も浮き浮きし、陽気に誘われて、つい散歩にでも出かけなくなってしまう。花の種類も冬春の花から、春夏の花へ移り変わり、それにつられて花の産地も暖かい南から、だんだん北の方へなっていく。最近、人の心を豊かにする花のギフトの習慣がやや薄れてきたような気がします。

休日の午前中、散歩がてら花屋を覗いてみませんか。そして思い立ったら家庭に、職場に、出合いの人に、遠くに贈って行く人にお花を贈ってみませんか。

## つるおいのフラワーランド

新宅原博

フラワーランドは、区民の方々が楽しく参加の出来る花作りのお庭です。各地域から、お花の好きな人、土いじりの好きな人達が、町をお花でいっぱいにし、まじりの気持ちを育てて来ます。今年で14年目の春をむかえます。

園内は四季折々の趣がありますが、やはり気持の高ぶる春はすばらしいと思います。バラのトンネル、むせかえる様なボタンの花。またパンジー、デージーやチューリップ達のかわいらしく着かざった姿にも心がなごみます。忙しい毎日ですが、ほんのひととき、お花と友達でありたいですね。

## 坂公園の八重の坂道

細谷潤子

坂公園に向かい環状八号線を跨ぐ砦パークアリッジを進むと、目の前には公園の太い敷地が展開されます。橋を渡りきると、その先は、左右になだらかに下る坂道へと続きます。坂道を歩くと、その両側の木々に咲く花々が目にとまります。この道は「八重の坂道」と呼ばれ、四季を越えて、一年を通して花や草木を楽しめるように、平成九年の三月に作られました。

三月にはマンサワ、四月はヤマブキ、五月から六月にかけてはライラックやフテナシ、アジサイなどの花が楽しめます。

## ある少年の物語

鈴木武一

三寒四温の早春過ぎ、梅・桃・桜、ひと騒ぎ。木の芽くさの芽萌えてきた春だ。ハルだよ待ってたよ。卒入學をやり過ごして、背広服だいいボク達は、リネンなんかには負けれぬ。泥んだ電車も驚かす。席もゆすってワッソウと玄關警備のおじさんに敬礼されて嬉しいな。受付係にオハヨウと言われる前にコチラから大きな声で言うんだと父に言われて声が出ず黙ってオジギやりました。前後左右は皆先輩と思ったら新社員。

アラ驚いたビックリコみんなに合せて「ミチ」は社長訓話もウワの空向って右に襟パッチ。世紀ニッポン突進だ。ボク等新進エンジニア見て呉れ吃度何かやる。技術ニッポン我らの誇り。一生懸命つとめます。休まず毎日健康で。アノ子も必ず連れてきて結婚出産ソレツ育兒ッ。何でも相談するからね。父さん母さんありがと。守って下さい。神佛。こんな気持のボク達を認めて「ミチ」の世の人よ。二〇〇〇年だいいミレニアム。空でひばりも笑った。雲のむこうは富士の嶺。昨日も今日も暮るも。しずかに暮る...



# 郷土紹介

## 玉電車庫用地

東名高速から首都高三号線の用賀料金所に向かう時、左側に高く聳え立つオアシビル・SBSのシンボルタワーは、すっかりお馴染みとなりましたが、かつてここが玉川電車の車庫用地であった事を知る人も少なくなりました。

玉川電車は、明治四十年多摩川の砂利を運ぶ目的を兼ねて開通した路面電車であり、変電所や車庫基地は、今の新玉川線池尻大橋駅を少し渋谷方面に向かい、目黒川の先、右側にありました。その後、玉川電車は世田谷線や有線等の支線が出来、沿線住民にとって重要な交通機関となっていました。

## ごみを減らす暮らしのすすめ

四月から、ごみの収集と運搬が東京都から世田谷区へ移管されます。それに先立ち、二月の末からは資源分別回収が実施されています。これは、今まで以上に、ごみの減量やリサイクルの普及を促しているというところののだと思います。

私たちの日々の暮らし、生活を振り返ると、近年は特に、燃えないごみの量が増えている気がします。今のうちに、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等が現れる以前は、買い物を頻りに行っていた記憶があり、買い物に行くと、八百屋さん、魚屋さん、お肉屋さんや豆腐屋さんへ

通関関となっていました。太平洋戦争の末期、首都東京が米軍機B29によって連日空襲を受け、大橋車庫の車庫を避難させる為、急換、郊外に車庫基地を確保する必要が起りました。

その目的で用意されたのが、この車庫用地です。然し、戦争は閉幕し、終戦、跡地は広大な原っぱとして残って、近所の子ども達にとって格好な遊び場の場所でした。そして、昭和四十四年、玉川電車は廃止となり、昭和五十二年に新玉川線と衣替えとなりましたが、同様の建設中、渋谷までは代行バスが運行され、ここはバスの折り返し所や車庫として利用されました。



ます。その頃は、肉や魚の包装も、今のようなパック類ではなく、竹や紙などでできた自然の燃えるものでした。また、現在の生活では、大型店舗や通信販売などで大量に物を購入して、賞味期限が過ぎてしまったり、実際には使わないものだったりして、結局はごみとして処分してしまうという現実もあると思います。

ごみを減らすには、まず、無駄を無くして本当に必要なものだけを購入することが第一だと思います。その次に、物を有効に使うこと、使える資源としてリサイクルを行うことだと考えられます。

# 故郷の高原

用賀町 掛川延夫

私の故郷上州（群馬県）には美しい赤城、榛名、妙義の三つの山があり、これ等の山を上毛三山と呼んでいます。これを書き始めた頃の景色が脳裏をかすめて行きます。一面の妙義に東の赤城、中を取り持つ榛名山とか。

私は初夏から秋の高原が大好きです。初夏は高根特有のレンゲツツジの群落や其の他百花繚乱。霧の彼方から高原に響き渡る郭公の声、カッコーカッコーとコーラスでもしているかの様に時折裏山や時鳥の囀りも混じって、それは／＼長閑なものです。他人の聲に耳を預けてもいないで他人任せの奴はチロリ

## スポーツ

平成十一年度ありがとう賞

今回は区全境で27名、玉川地域で9名、用賀出張所地区では、2名の方が受賞されました。

河野秀太郎さん（玉川三丁目）玉川・鎌田地域のバス停付近で、タバコの吸い殻やごみ、落ち葉の清掃を毎朝、長年に亘り行なっています。山田年賀さん（用賀二丁目）長年に亘って、竹細工の製作を通して地域の小学生に伝統工芸のすばらしさを教えています。

これからも、お元気で、ご活躍を続けて下さい。

歩こう会のご案内

身近なまちづくり・健康づくり部会主催の歩こう会は、今年も七月七日に行われます。是非ご参加を。

## わが故郷

懐かしい、霧の中に響き渡るあの声が大好きでたまにいます。毎年この時期になると郭公に引かれて、暮光寺ならぬ高原に早起きして出かけます。昨年は赤城山の麓まで行きました。日曜日のせいもある、家族連れが多く大変賑やかで山も喜んでくれるかの様に思えました。

或る家族が帰り仕度をしておりましたが、ゴキは全部袋に入れて持ち帰って行きました。来る人達がこの様にマナーを守れば、何回でも奇麗であり山も喜ぶ事でしょう。田舎を持たない都会人には最上のオアシスだと思えます。日帰りで充分に楽しめますから愛妻弁当持参にてお出掛け下さい。



穏やかな陽射しに、賑りを誘われる季節です。夢の中に浮かぶのは、あなたの故郷？

この号子は「趣味の本場」の欄が「わが故郷」に、掛川さんの故郷は、すぐにも行ってみたい素敵な自然いっぱいですね。

花は人の心を豊かにし（加瀬さん）、心をなごませ（新宅さん）、心あたたかい町に（高橋さん）してくれ。

路傍の小さな花だって目に優しく、心に潤いを与えてくれます。

ほら、あなたの足もとにも……

